

【漁況】

[マアジ]

1. 漁獲量の動向（農林統計）

全国のマアジの漁獲量は、昭和40年の53万トンにピークに減少傾向となり、昭和55年には5万4千トンとなりました。その後増加傾向に転じ、平成8年には33万トンに増加し、平成10年までは30万トン台で推移しました。しかし、平成11年には大きく減少し21万1千トンとなり、平成14年は19万2千トン、平成15年は21万4千トンでした。

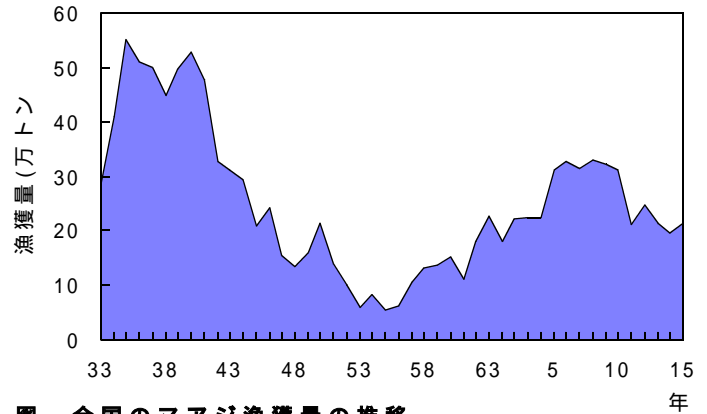


図 全国のマアジ漁獲量の推移

2. 平成17年1～3月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では、阿久根沖～野間池沖、甌周辺に漁場が形成されました。

薩南海域では、内之浦沖、佐多沖に漁場が形成されました。

4港計のまき網では、豆アジ(1歳魚・平成16年生まれ)主体に1,199トンの水揚げで、前年の83%及び平年の112%でした。

3. 平成17年4～6月期の見とおし

漁獲の主体は、豆・小アジ(1歳魚・平成16年生まれ)で、来遊量は前年・平年を上回るでしょう。

(根 拠)

主対象の豆・小アジ(1歳魚)は、資源水準が近年では高いので、漁況は好調に推移すると考えられます。

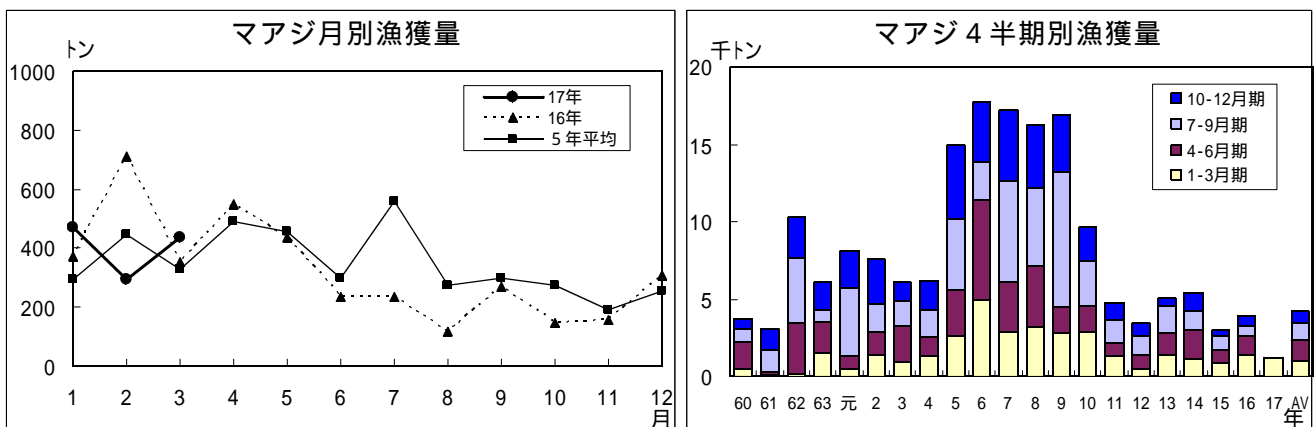


図 マアジまき網漁獲量変化(4港計)

平年値は過去5年（平成12～16年）の平均値，平成17年3月末までの水揚げ量を使用。

[サバ類]

1. 漁獲量の動向（農林統計）

サバ類の漁獲量は、昭和53年の160万トンを超えてマサバ資源水準の低下により年々減少し、昭和57年には72万トンとなりました。その後は、ゴマサバの増加により大幅な漁獲量の減少は見られませんが、昭和63年以降はゴマサバの資源水準も低下したため、サバ類の漁獲量は大きく減少し、平成3年には26万トンとなりました。平成9年には84万9千トンと増加しましたが、その後再び減少し、平成14年は27万9千トン、平成15年は34万4千トンでした。

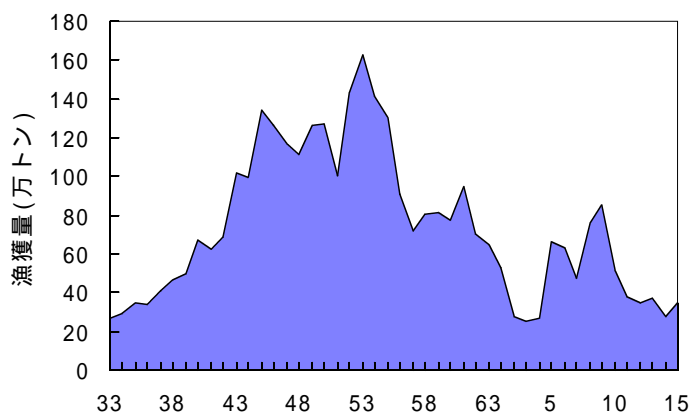


図 全国のサバ類漁獲量の推移 年

2. 平成17年1～3月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

薩南海域では、2月まではゴマサバ小・中(1歳魚)主体で、3月以降はゴマサバ中・大主体(2歳以上)の来遊もまとまった。内之浦沖・馬毛島沖・種子島東が主漁場となった。

4港計では、ゴマサバ小・中(1歳魚)及びゴマサバ中(2・3歳魚)主体に2,113トンの水揚げで、前年の77%及び平年の81%でした。

3. 平成17年4～6月期の見とおし

漁獲の主体は、ゴマサバ中・大主体(2歳以上)及びゴマサバ小・中主体(1歳魚)でしょう。来遊量は前年・平年を上回るでしょう。

（根拠）

主対象となるゴマサバ中・大(2歳以上)の本県海域への来遊は平年並みですが、ゴマサバ小・中(1歳魚)は来遊量は好調で平成10年以降では最も高い水準であります。総合的には前年・平年を上回ると考えられます。

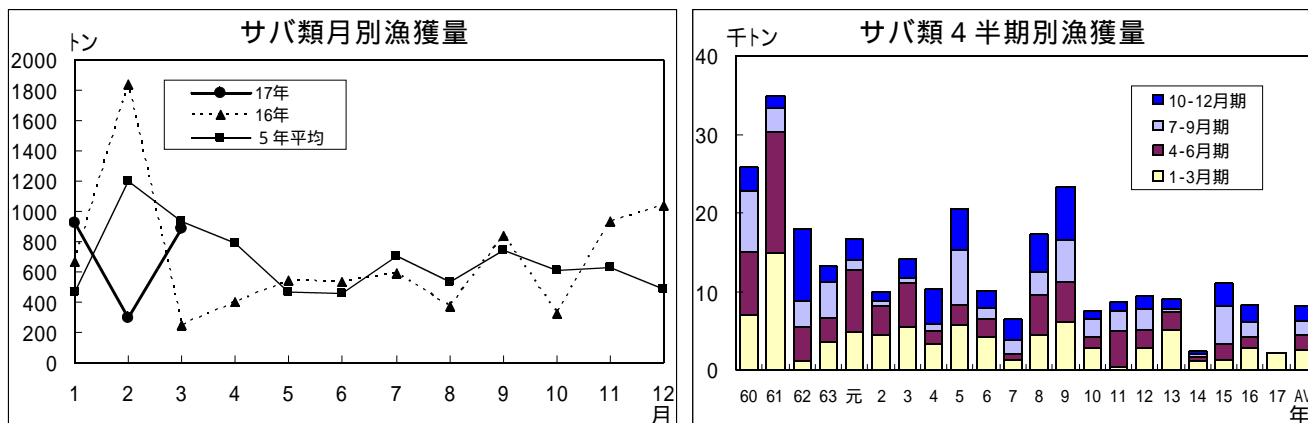


図 サバ類まき網漁獲量変化(4港計)

平年値は過去5年（平成12～16年）の平均値，平成17年3月末までの水揚量を使用。

[マイワシ]

1. 漁獲量の動向（農林統計）

全国のマイワシの漁獲量は、昭和30年代から40年代にかけての不漁期の後、昭和48年頃から増加の傾向が見られ、昭和63年には449万トンまで増加しました。

しかし、平成元年から三陸沖を中心に漁獲量が減少し始め、その後もマイワシの若齢魚の減少等により、全国的に漁獲量は減少を続け、平成7年には66万トン、平成10年は16万7千トンとなりました。平成11年は35万1千トンとやや増加したものの、その後減少し平成15年は5万8千トンでした。

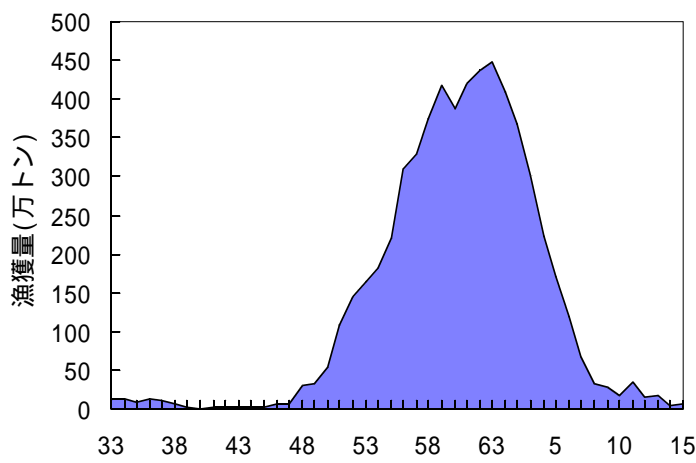


図 全国のマイワシ漁獲量の推移

2. 平成17年1～3月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

3月に北薩海域で中羽マイワシを主体とした散発的な水揚げがありました。

まき網4港計及び棒受網の合計では、3.9トンの水揚げで、前年の3900%及び平年の35%でした。

3. 平成17年4～6月期の見とおし

来遊量は平年を下回り、まとまった漁獲は期待できないでしょう。

（根拠）

マイワシの資源状態は全国的に低水準にあり、資源回復の兆候はみられません。

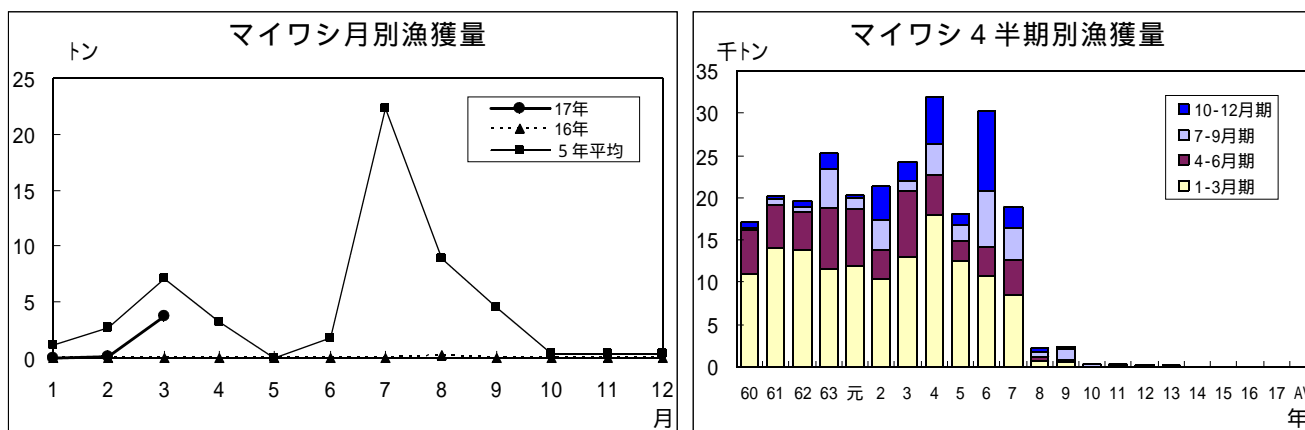


図 マイワシまき網漁獲量変化(4港計)

平年値は過去5年（平成12～16年）の平均値，平成17年3月までの水揚量を使用。

[ウルメイワシ]

1. 漁獲量の動向（農林統計）

全国のウルメイワシの漁獲量は、昭和30年代後半から40年代前半にかけて3万トン前後で推移していましたが、昭和46年から54年まで5万トン前後で推移しました。昭和55年以降、漁獲量は減少し昭和60年には3万トンとなりましたが、その後、増減を繰り返しながら、増加傾向を示し、平成6年に6万8千トンとなりました。近年では再び減少傾向に転じ、平成9年は5万5千トン、平成15年は3万トンでした。

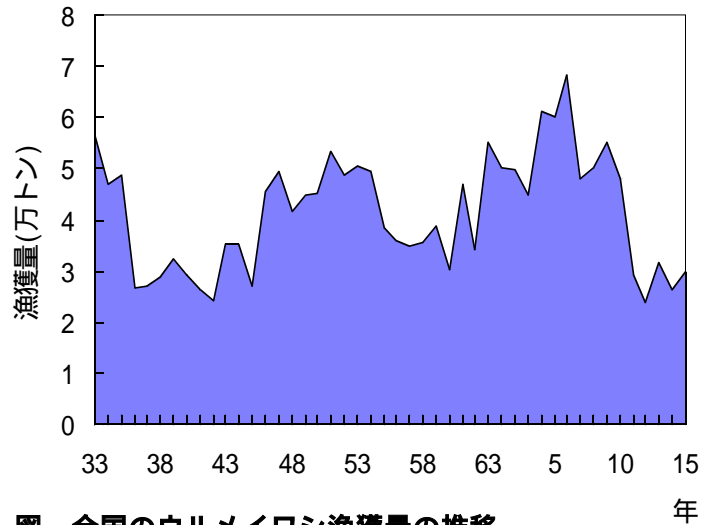


図 全国のウルメイワシ漁獲量の推移

2. 平成17年1～3月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

1月は前期に続き薩南海域の沿岸付近で中～大羽（1歳魚・平成16年生まれ）主体のまとまった来遊がありました。

まき網4港計及び棒受網の合計では、118トンの水揚げで、前年の97%及び平年の82%でした。

3. 平成17年4～6月期の見とおし

期間前半は中羽ウルメ（1歳魚・平成16年生まれ）が、後半は小羽ウルメ（0歳魚・平成17年生まれ）が漁獲の主体になり、来遊量は前年・平年並みか下回るでしょう。

（根拠）

前期の漁況経過及び周辺海域の漁模様から期間中低調に推移すると考えられます。

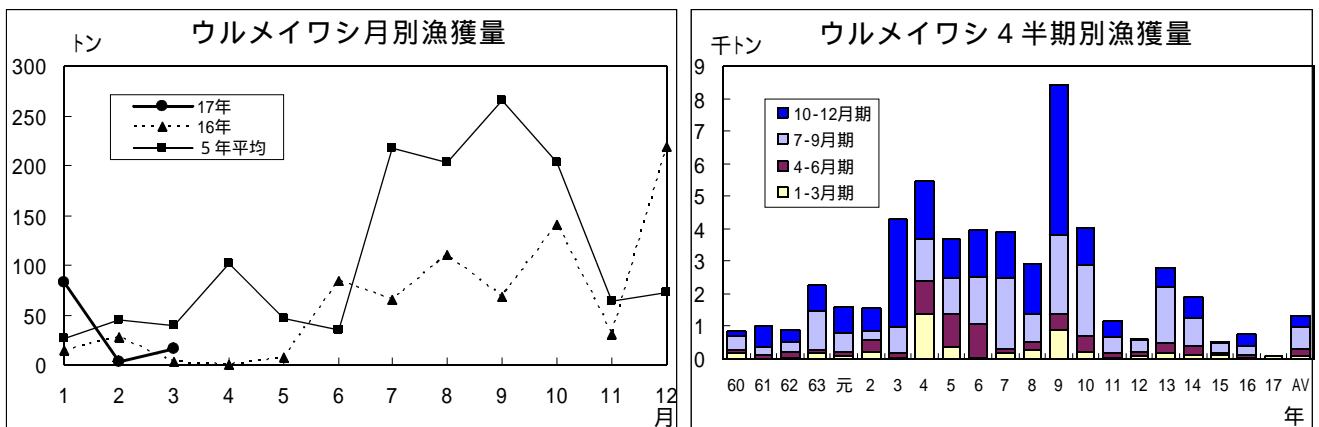


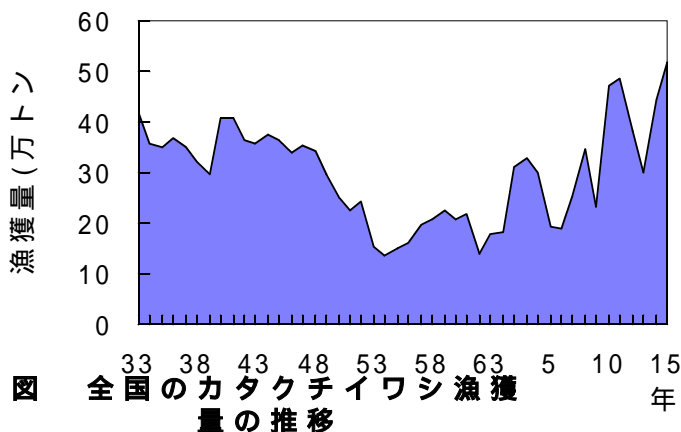
図 ウルメイワシまき網漁獲量変化（4港計）

平年値は過去5年（平成12～16年）の平均値，平成17年3月までの水揚げ量を使用。

[カタクチイワシ]

1. 漁獲量の動向（農林統計）

カタクチイワシの漁獲量は、昭和48年まで30万トン台で変動していましたが、昭和49年以降減少傾向となり昭和54年には13万トンとなりました。その後、徐々に漁獲量は増加し昭和59年には22万トンとなりましたが、昭和62年には再び14万トンまで減少しました。昭和63年以降は大きく増減を繰り返し平成9年は23万3千トン、平成11年は48万トンとなりました。平成13年は、30万トンと一時的に減少しましたが、平成14年は再び増加し44万トン、平成15年は過去最高の51万7千トンでした。



2. 平成17年1～3月期の漁況の経過

【 4 港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）のまき網及び棒受網】

北薩海域を中心に中～大羽（1歳魚，H16年生まれ）主体の水揚げがありました。

まき網 4 港計及び棒受網の合計では911.5トンの水揚げで、前年の285%及び平年の334%でした。

3. 平成17年4～6月期の見とおし

期間前半は中～大羽(1歳魚・平成16年生まれ)が、後半は小～中羽(0歳魚・平成17年生まれ)が漁獲の主体になり、来遊量は前年・平年を上回るでしょう。

（根拠）

前期の漁況経過や周辺海域の漁模様から、来遊水準は高いと思われること、また平成17年3月に実施した卵稚仔調査結果（3月1日～4日）から、カタクチイワシの卵や稚仔魚の分布は、近年では高水準にあり、平成17年に発生した0歳魚も今後順調に加入するものと考えられます。

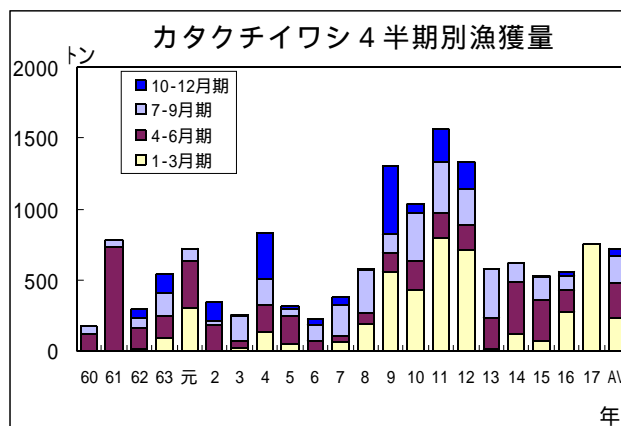
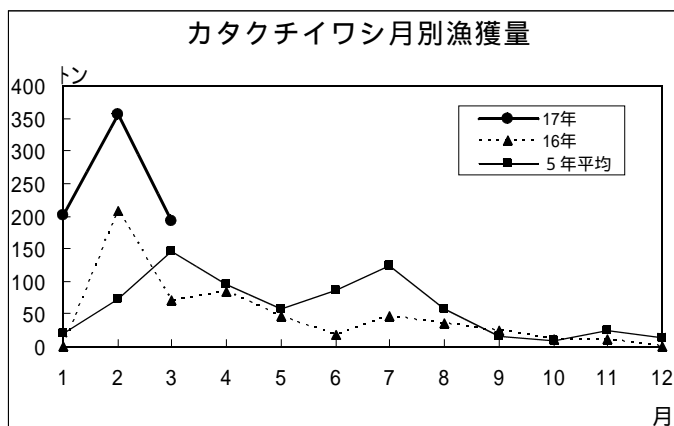


図 カタクチイワシまき網漁獲量変化(4港計)

平年値は過去5年（平成12～16年）の平均値，平成17年3月までの水揚げ量を使用。

[その他の魚種]

ムロアジ類（4港計）

1. 経年変化及び平成17年1～3月期の漁況の経過

ムロアジ類の漁獲量は、平成2年の21,700トンピークに減少傾向を示し、平成12年は、昭和58年以降最低の1,819トンとなりました。平成13年以降はやや増加し、平成14年には4,418トンとなりましたが、その後はやや減少し平成16年は2,529トンとなりました。

平成17年1～3月は、主に薩南海域で漁獲があり、期全体では550トンの水揚げで、前年の60%及び平年の60%でした。

2. 平成17年4～6月期の見とおし

来遊量は前年を上回り、平年を下回るでしょう。

オアカムロ（4港計）

1. 経年変化及び平成17年1～3月期の漁況の経過

オアカムロの漁獲量は、平成元年の5,300トンピークに減少し、平成6年には1,823トンとなりましたが、その後は増加傾向となり、平成10年は3,413トンでした。その後、減少傾向となり、平成16年は2,204トンとなりました。

平成17年1～3月は、主に薩南海域で漁獲があり、期全体では346トンの水揚げで前年の79%及び平年の53%でした。

2. 平成17年4～6月期の見とおし

来遊量は前年・平年を下回るでしょう。

マルアジ（アオアジ）（4港計）

1. 経年変化及び平成17年1～3月期の漁況の経過

マルアジの漁獲量は、平成2年以降低調に推移しましたが、平成7年には1,430トンに増加しましたが、再び減少し平成11年は639トンでした。平成12年以降は増加傾向を示し、平成15年は3,150トンとなりました。その後減少し、平成16年は282トンでした。

主に西薩海域で漁獲があり、期全体では163トンの水揚げで、前年の220%及び平年の34%でした。

2. 平成17年4～6月期の見とおし

漁獲の主体は、マルアジ豆・小（1歳魚・平成16年生まれ）及びマルアジ中・大（3歳魚・平成14年生まれ）で、来遊量は低調であった前年並みで、平年を下回るでしょう。

（根拠）

例年主対象となるマルアジ豆・小（1歳魚・平成16年生まれ）及びマルアジ中（2歳魚・平成15年生まれ）の来遊量が低調であるため、漁況は低調に推移すると考えられます。

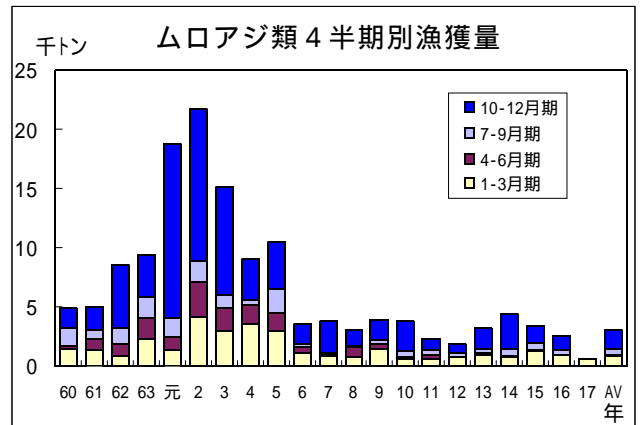
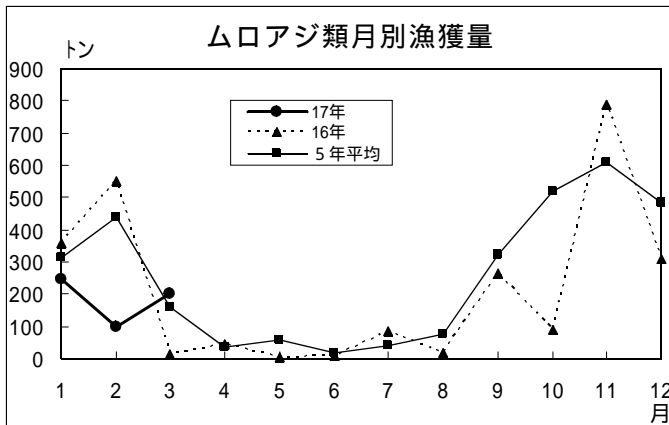


図 ムロアジ類まき網漁獲量変化(4港計)

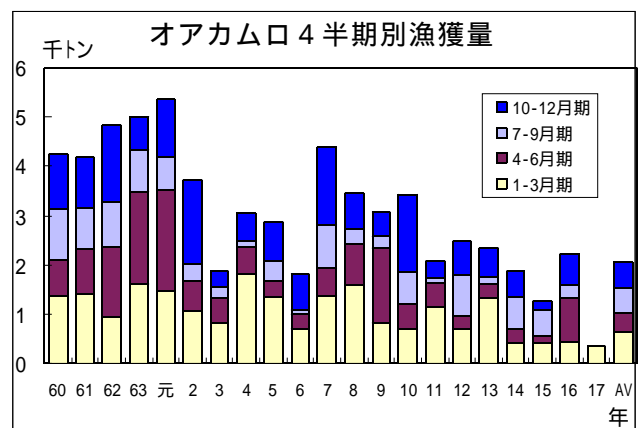
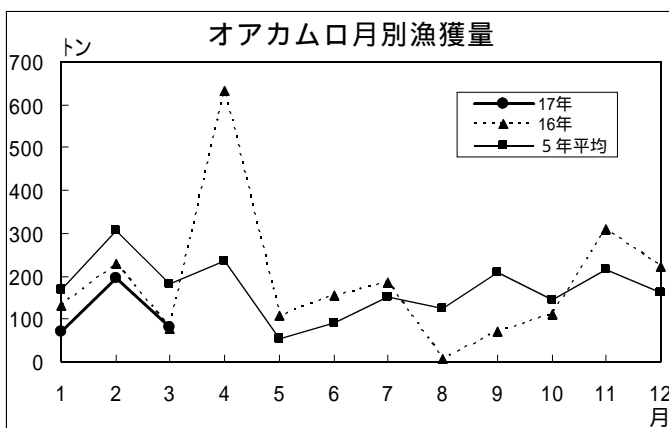


図 オアカム口まき網漁獲量変化(4港計)

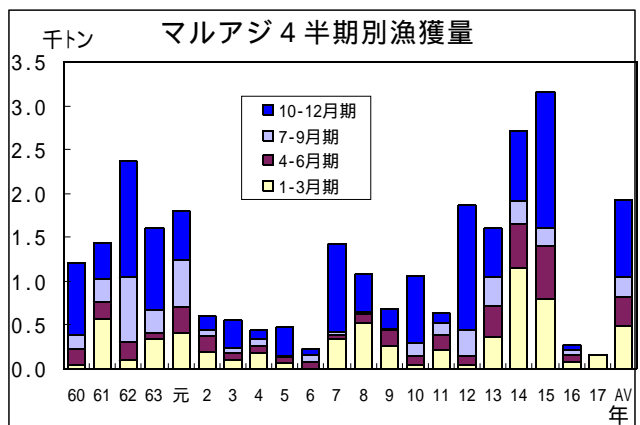
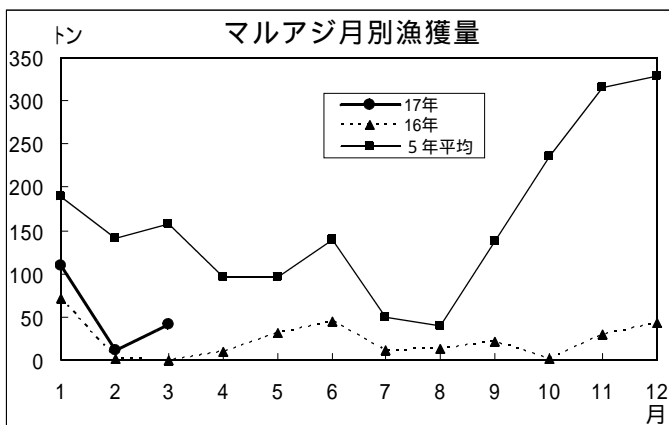


図 マルアジ(アオアジ)まき網漁獲量変化(4港計)

平年値は過去5年(平成12~16年)の平均値,平成17年3月末までの水揚量を使用。

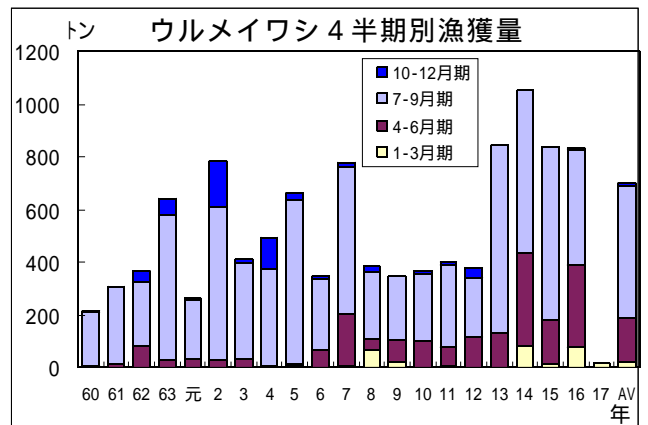
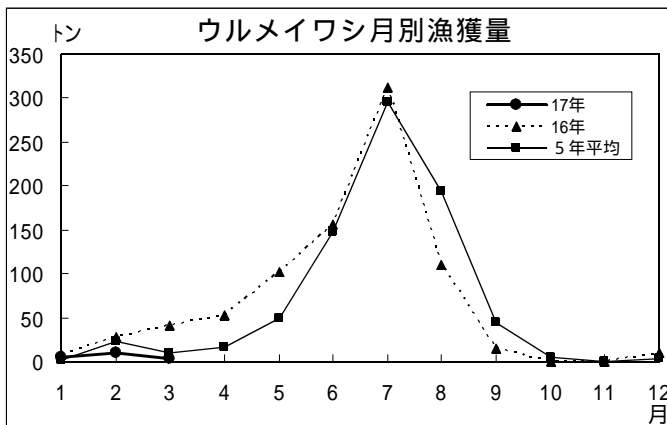


図 ウルメイワシ敷網漁獲量変化(阿久根港)

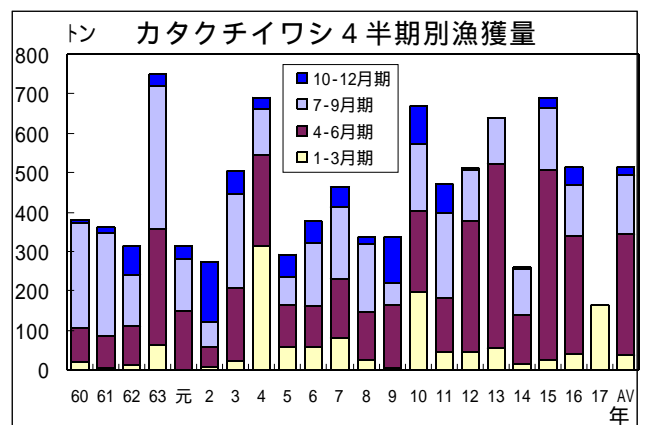
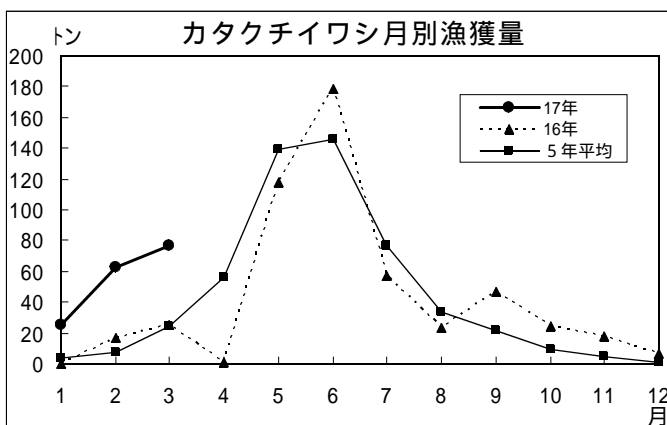


図 カタクチイワシ敷網漁獲量変化(阿久根港)

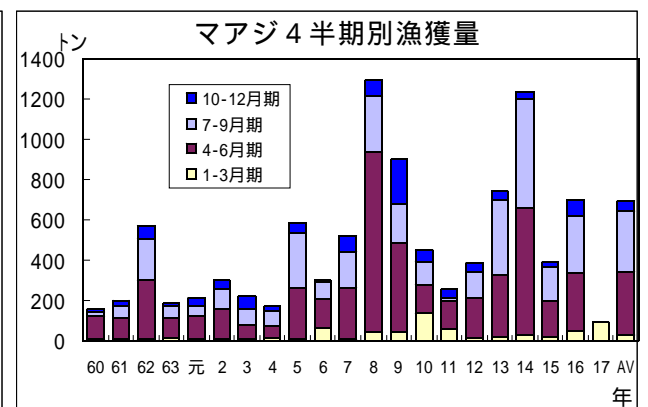
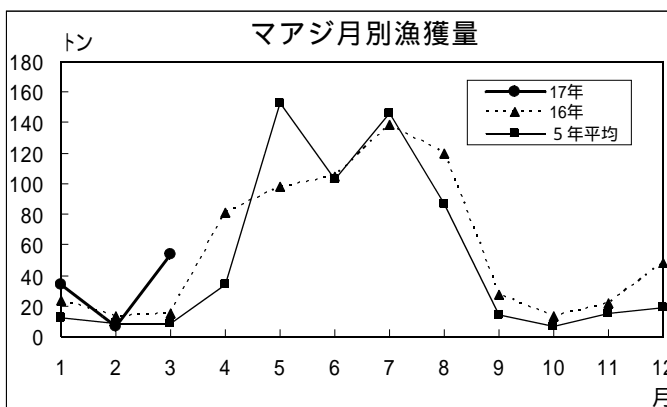


図 マアジ定置網漁獲量変化(内之浦港)

平年値は過去5年（平成12～16年）の平均値，平成17年3月末までの水揚量を使用。